幻となった「阿哲台」の日本遺産申請

２月13日の皮肉な巡り合わせ

里山とカヤと石灰岩の石垣　ピオーネの大産地として知られる阿哲台は、カヤを土づくりに活かす。刈ったカヤは畑等に立て、やがて細かく切り落葉（しば）と混ぜ畑に敷く。土の乾燥を防ぎ、肥料にもなる。自然とかかわり活かす里山の暮らしが変わらずにある。

「２月13日は日本遺産の日」。何とも皮肉な巡り合わせに天を仰いだ。本紙はここ数年、日本で２番目に広いカルスト台地「阿哲台」の魅力を繰り広し紙面紹介してきた。

平成30年新年号では「阿哲台を日本遺産にしよう～誇るべき地形、植生、生活文化、産業～」と題し、その資源と日本遺産の要件やストリートの求めなどを写真とともに特集した。阿哲台の日本遺産への挑戦を市や研究者等に語るほどに賛意を示す人は多く、市の前向き姿勢にも手応えを得た。市外の研究者（岩崎早穂さん・同志社大学大学院生）の協力で、日本遺産申請の手順や要件など様式シートも入手した。

※　※　※

同年５月以降、ストーリーの元になる「阿哲台を中心にしたカルスト台地」構成文化財候補リストの作成に着手。資料を当たり、聞き取り、岩崎さんの知見も加えながら書き進めたリストはＡ４判10ページに及ぶ。７月初旬、これらは市や市教委に提示、今後の推進を委ねた。

日本遺産は２０１５年度にスタートし、約１００件の認定目標と聞いていた。目標数値がある以上、逆算した事業スケジュールが想定できる。途中、何度か市教委等に問い合わせるが、進展のないまま年度を越した。

そして年末、この年度で目標に達し、当面、新たな募集に行わない、との文化庁の方針とともに、「日本遺産の日」が示された。２月13日は語呂合わせで「にいみの日」としてきた。

※　※　※

阿哲台を中心にしたカルスト台地は、**「台地上に人が住み、自然とかかわり活かし暮らしを営んできた」**ことが最大無比の特徴で、自然科学とともに、歴史文化や人の往来を示す多様な人文科学があった。

構成文化財候補リストに載せた項目は、「阿哲台を中心にしたカルスト台地」「石灰岩の地形」「石灰産業」「石灰（いしばい）と吉岡銅山」「鍾乳洞」「薬石」「延喜式に載る日咩坂鍾乳穴（ひめさかかなちあな）神社」「阿哲台を中心とした文化」「植物区系・阿哲地域」「蘚苔類」「昆虫類」「備中漆」「阿哲台を中心にしたカルスト台地の農業」「石灰岩地帯の伝統の郷土食」「石灰岩由来のＡ級食材」―の14項目に及ぶ。要所には、日本遺産とするストーリーを紡ぐためのトピックスも盛り込んだ。

構成文化財候補

以下、構成文化財候補リストの要約を紹介したい。

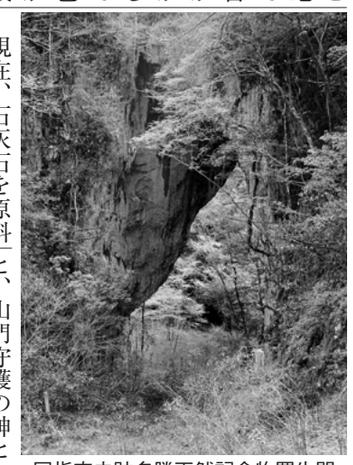
【阿哲台を中心としたカルスト台地】阿哲台は新見市南部、真庭市下呰部の東西約18キロ、南北約12キロ、標高３５０～５００メートルに広がる石灰岩台地で、広さは山口県秋吉台に次ぐ規模を持つ。台地は複数の河川により「石蟹郷台」「草間台」「豊永台」「唐松台」に分かれ、東北に「上房台」、南に磐窟渓や羽山渓で知られる「大賀台」や「備中平川・郷地区」が接する。

旧草間中学校の運動場はドリーネの中に作られ、カルスト地形と実生活が密接に関係していたことを示す痕跡のひとつ。台地の上で人々が自然とかかわり活かし暮らしを営んできた特色の数々が当該地域にはある。

【石灰岩の地形】阿哲台（県天然記念物）は、ドリーネやカレンフェルトなどのカルスト地形が発達し、高さ２５０メートルの井倉峡の渓谷、阿哲台の形成を知ることができる縞状無明谷には、石灰を焼く「石灰（いしばい）小屋」跡が残る。

石灰小屋の近くには、市記念物史跡「萬歳の泉」があり、平安時代、この名水は京の都に知られ、長和５年（１０１６）、後一条天皇の大嘗会でこの泉の水が歌に詠まれた。宇多天皇（８６７～９３１）の巡幸の地、南北朝期には後醍醐天皇が「帰京」の際、この泉で休息している。名水が京に知られた理由に「銅」の産出があったかもしれない。

【鍾乳洞】国内には約２０００の鍾乳洞があり、うち半数は沖縄。岡山県内の約２００の鍾乳洞の大部分は阿哲台の中に分布する。満奇洞は、昭和初期には



国指定史跡名勝天然記念物羅生門

現在、石灰石を原料にした石灰産業は、新見、真庭、高梁に約20社が立地している。

【石灰（いしばい）と吉岡銅山】高梁市坂本の吉岡銅山は８０７年発見という古い歴史を有し、日本三大銅山に数えられ、江戸から大正にかけての最盛期には、全国有数の産出量を誇った。

銅の精錬には石灰が使われ、吉岡銅山から１～２キロの距離にある

と、山門守護の神として、洞穴の頂上本宮にイザナギ、イザナミの命を勧請。平安前期の大同２年（８０７）、空海が三尾寺を中興すると、同神社も栄え、天長年間（８２４～３４）社殿を建立した。

洞内は、「石鍾乳（いしもち）」という薬石を産する鍾乳洞として有名だった。貞観元年（８５９）、清和天皇は曲薬頭・出雲朝臣峯嗣を都から派遣し、この洞穴から石鍾乳を採取させたことが「三代実録」（延喜元年＝９０１＝に成立の平安時代の歴史書）に記載がある。

「中薬学」（上海科学技術出版社）によると、「処方用名／鍾乳石、石鍾乳」は「基原／炭酸塩類の鉱物鍾乳石Ｓｔａｌａｃｔｉｔｅの乳状石塊（主成分は炭酸カルシウム）で、「帰経／肺、腎、胃」「効能／温肺止咳、温腎補陽など」とあり、高貴な薬として当時の上流社会で重宝されていたことが窺われる。

【延喜式に載る日咩坂鐘乳穴神社】後醍醐天皇の時代（８９７～９３０）の「延喜式」に式内社として指定され、神名帳には「比賣坂鐘乳穴神社」と記載されている。現在の本殿は文化12年（１８１５）に建築。神仏分離まで三尾寺の配下にあり、寺とともに栄えた。明治５年、三尾寺から独立し村社となり、昭和５年、県社に昇格した。

この神社には、６００年以上前から伝わる「お田植え祭」（市重要無形民俗文化財）の神事が残る。また、旧暦１月11日と11月11日に行われる「御へら焼供進祭」は、米粉を甘酒で練り、干し柿を入れ、これを牛鍬のへらの上で焼き、神に供える。行事の後、氏子たちはこれを食べると健康になるといわれ、今に伝える。

この御へら焼は、古く神に供えた「しとぎ」を今に伝える行事ではないだろうか。

【阿哲台を中心とした文化】阿哲台には、京都につながる中世の道が呰部－豊永－岩本－寺内－土橋－田津－唐松－木畝－新見と通っていた。往時のメインの街道筋にあたり、地勢的に人や物質や情報の往来がこの地の文化に大きな影響を与えた。

三尾寺には、行基彫刻と伝えられる木造千手観音座像が本尊としてあり、両脇に空海作という毘沙門天立像と不動明王立像が安置され、「木造千手観音両脇士像」として国宝に指定されている。

阿哲台の湯川寺（森内）、大椿寺（花木）は南都第一の碩徳（高徳の僧）といわれた玄賓僧都が開基した。

【植物区系・阿哲地域】植物学者前川文夫氏（１９０８～８４）が自著「日本の植物区系」の中で、わが国の植物全体の地域的違いから日本を９区系に分け、その一つに阿哲台とその周辺部を独立した区系「阿哲地域」と区分した。南方系と北方系の植物が共存し、好石灰岩植物が自生している特徴がある。

新見自然の会の大橋日出男会長によると、「石灰岩地帯はアルカリ性土壌で保水力に乏しいため、植物の生育にとっては非常に厳しい環境だが、この条件に耐える性質を獲得すると、他の植物との競争が少なく、かえって生育しやすい環境になる」と特性を話す。

【蘚苔類】日本蘚苔学会が２０１３年８月、「日本の貴重なコケの森」のひとつに羅生門ドリーネを選定。「東洋一の天然の石門といわれ、珍しい苔の宝庫」と評し、１２８種の蘚類と39種の苔類が発見されている。

【昆虫類】ガロアムシなど洞穴昆虫、ウスイロヒョウモンモドキ、ヒメボタル、ゲンジボタルなどを保護活動とともに紹介。

【備中漆】漆芸家で漆掻きも行う山本光延氏による現状調査と分析を元に、カルスト台地の漆の歴史を述べる。

【阿哲台を中心にしたカルスト台地の農業】保水力が乏しいカルスト台地は、常に水との戦いとともに生活と農業生産があった。典型的な畑作地帯として生産活動が展開され、ソバやタカキビなどの雑穀、タバコ、備中白小豆、ニホンハッカ、漆、養蚕、コウゾやミツマタなどたくさんの換金作物を栽培し、合算で生計を立ててきた。

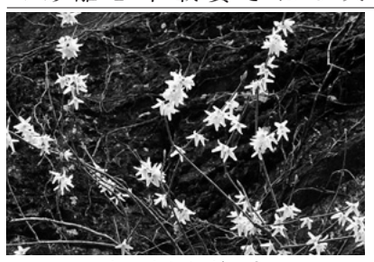
この地域のカヤを活かした農法（土の乾燥を防ぎ、肥料になる）は、タバコ栽培からピオーネ栽培にも引き継がれている。秋になると、刈り取ったカヤを畑にピラミッド型に立てた風景がいたるところで見られ、阿哲台の原風景になっている。

保水力が乏しいため、カルスト台地は、農地周辺のカヤと里山からの落葉（シバ）を混ぜて土を作り出し、作物を栽培した。

【石灰岩地帯の伝統の郷土食】ぶり雑煮に代表されるブリ、塩サバを使ったさば寿司、新小麦使いが畑作文化に重なるけんびき焼きを紹介。

【石灰岩由来のＡ級食材】ピオーネ（ブドウ）、ワイン、チョウザメ・キャビア、アユなどこの地帯の土壌や水質の及ぼす「味」の良さに言及した。

哲多矢戸の tetta ワイナリー（手前はブドウ畑）



ヤマトレンギョウ

アズマイチゲ

様式３－１　構成文化財一覧

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称（※1）	指定等の状況（※2）	ストーリーの中の位置づけ（※3）	文化財の所在地（※4）
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

（※1）文化財の名称には通称呼び名を付けること。
（※2）指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
（※3）各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
（※4）ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名をあわせて記載すること）。

なるべく早く、候補抽出、情報収集にかかる
ざっくばらんの初回、目的に添う２回目、
ストーリーとの照合の３回目
が最低限必要（会議）

作業項目	期限	備考
（ストーリーを大雑把に決定）	6月	
候補抽出	6月	複数会議 asap
精査	7月	
初稿完成	7月	

「白と黒のふしぎの国・新見」づくり

（昔からこのまちは「黒いもの、白いものなら新見においで」と言われてきた）

黒	千屋牛、たたら、木炭、ＳＬ（線路）、ピオーネ、屋根（石州瓦）、キャビア（ロシア語で「黒い魚卵」）、カブトムシとクワガタ（里山の昆虫）、闇（夜空）、洞窟
白	石灰、雪（スキー場含）、ユキワリソウやチョウジガマズミなど白い山野草、サギソウなど湿原の花、ソバの花、水（清流）、氷、鍾乳洞、ワイン、和紙、タバコの三角キャップ、雨除けハウス、米、餅、白酒
白と黒	御殿町のなまこ壁
灰色	ダム（市内６か所）、tettaワイナリー
ふしぎの理由	①悠久の時間と変化　②気候風土を生かす　③手間暇かけ慈しむ　④生きる歴史　⑤希少動植物生息

交流人口を増やし、新しい生業や商いを誘発し、地域所得を向上させる

宣伝ＰＲ
- ポスターパンフづくり
- 花園等地域資源歴
- HP、SNS発信
- 観光大使・縁組活用
- 在住外国人ツアー発信
- キャラバン活動
- 割引制度

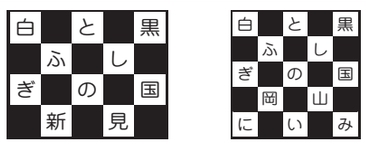
地域学
- 図書館講座資料収集
- 公民館講座
- 学校授業
- 副読本づくり
- 地域自慢大会
- 検定
- 資源保護活動

観光プログラム
- 体験プログラムづくり
- 周遊ルートづくり
- 食・土産開発
- 担い手養成
- もてなし講座
- ガイド養成
- 流域、近隣自治体連携

基盤ハード整備
- 案内看板（統一）づくり
- 駐車場、トイレ整備
- 空き家古民家活用
- 廃校舎リノベーション
- レンタサイクル
- ハイキング山野草センター
- ビジターセンター

推進体制　◉庁内マトリクス組織（観光・農・協働・生涯）◉官民一体推進本部（プラットホームあり）◉DMC（DMO）

リーディングプロジェクト（「白と黒のふしぎの国・新見」を実現していくための先導的事業取り組み）
クアオルト健康ウォーキング　阿哲台の日本遺産登録　ライムアーツプロジェクト



カラーイメージ	
白	信頼感、クリーン健康、希望
黒	高級、神秘存在感、水（五行）

日本遺産とは　日本遺産となるストーリー認定は、①歴史的経緯や地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたストーリー②中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられているなどの対象を明示している。

ストーリー　ストーリーを語る上で、①地域の有形無形の文化財群の一覧作成②構成文化財は、地域に受け継がれている有形無形のあらゆる文化財を対象とし、地方指定や未指定の文化財も可能③文化財群の中に国指定・選定を必ず一つは含める―ことを求めている。時間をかけても、保存、活用、発信など取り組む価値がある。

2020年　あけましておめでとうございます　子歳（順不同）

一般社団法人 新見医師会　会長 太田隆正
新見医師会立 くろかみ介護支援センター　☎〇八六七－七二－九六〇三
介護老人保健施設くろかみ　☎〇八六七－七一－〇三一一
訪問看護ステーションくろかみ　☎〇八六七－七一－〇三一〇　新見市高尾二三〇六番地の五　施設長 上江洲元治
一般社団法人 岡山県薬剤師会 支部長 渡邊誠
学校法人 天真学園　KYOUSEI　岡山県共生高等学校　URL http://www.kyousei.ed.jp
新見市中学校長会
新見市小学校長会
新見市教頭会
一般社団法人 阿新教育会館
岡山県教職員組合 支部長 横見信毅　副支部長 上杉信行　〃 高田俊介　書記長 木村弘之
新見ライオンズクラブ　会長 橋本直人　幹事 大谷國治　会計 佐藤直人
新見ロータリークラブ　会長 名越博波　幹事 三上幸恵　新見市西方450の12（新見駅前）☎0867㉒4461
国際ソロプチミスト新見　会員一同

医療法人 一節会　内科 吉田医院　院長 吉田徹　副院長 吉田智子　新見市高尾　電話 72－7838
医療法人　内科 上江洲医院　上江洲篤郎　新見市石蟹　電話76－1835
正月２日から営業　㈲リバーサイド　ゴルフ・リバーサイド180　新見市足見姫原　電話 75－2180　FAX 75－2856
火薬・花火・銃砲・エアガン・プラモデル　有限会社 中曽商店　http://nakasoh.blog46.fc2.com/　新見市新見831　TEL 72-0033　FAX 72-2608

内科・糖尿病内科・循環器内科・外科・眼科　小児科・泌尿器科　医療法人 真生会　新見中央病院　理事長 院長 治徳通博　新見市新見827－1　電話72－2110㈹
内科・糖尿病内科　医療法人 緑隆会　太田病院　理事長 太田隆正　院長 太田徹　新見市西方426　電話72－0214
整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科　内科・脳神経外科・皮膚科・放射線科・形成外科　医療法人 淳和会　長谷川紀念病院　理事長 院長 長谷川賢也　新見市高尾793－6　電話72－3105㈹
外科・整形外科・脳神経外科・消化器外科・循環器内科・内科　神経内科・婦人科・乳腺外来・放射線科・リハビリテーション科　健診センター（人間ドック・脳ドック）　医療法人 思誠会（特定医療法人）／へき地医療拠点病院　渡辺病院　理事長・院長 遠藤彰　新見市高尾 2278－1　電話 72－2123㈹